

北海道太平洋側4港湾連携クルーズ誘致連絡会 第4回意見交換会 報告書

I 意見交換会

日 時：平成24年3月15日（木）13:00～14:30

場 所：札幌第2合同庁舎8階会議室

出席者：北海道クルーズ振興協議会（北海道運輸局），室蘭運輸支局，室蘭運輸支局苫小牧海事事務所，釧路運輸支局，函館運輸支局，室蘭市，苫小牧港管理組合，釧路市，函館市
12名



議 事

1 平成23年度事業報告

- (1) V J 地方連携事業の応募
- (2) 第1回首都圏セミナーの開催
- (3) 意見交換会の開催
- (4) その他

2 平成24年度幹事港の選任

自薦，他薦，その他意見もないことから，現幹事港函館港から室蘭港を推薦。
出席者全員の拍手をもって承認。

3 V J 地方連携事業について

○採択の条件についての確認

(4 港湾側)

- ・今回，応募した「北海道太平洋側4港湾における海外クルーズキーパーソン招請事業」については，2月24日に北海道運輸局国際観光課から採択の通知があった。
- ・事業費は，国の負担が100万円までの範囲内，総事業費200万円まで。

・ただし、ひとつ条件が付けられており、その当初の内容は、4港を視察する行程の中に小樽港を含めてほしいということ。この点について、事の経緯と現状どうなっているのかを北海道クルーズ振興協議会から説明をお願いしたい。

(協議会)

・クルーズ振興協議会からではなく、VJ事業を所掌している北海道運輸局国際観光課に同席してもらっているので説明させていただきたい。

(国際観光課)

・今回の件では、みなさんに混乱があったと思うので、この場を借りて改めて説明させていただきたい。

・当初は、小樽港を含めてほしいということだったが、基本的な考え方としては、4港湾での提案どおりに進めていただいて構わない。

・ただ、運輸局の考え方としては、せっかくキーパーソンに来てもらうので、4港湾だけ見てももらうのは、せっかくの機会でもありもったいない。また、北海道運輸局として、北海道全体の観光の振興ということも考えている。北海道全体のクルーズのことについて、紹介する場をどこかの機会に設けていただきたいということ。

・当然、北海道の港湾全体ということになると、ひとつのキーとして小樽も入ってくるのではないかとということで、当初、視察先として検討してほしいという言い方をした。

・その点については、4港湾の意思を尊重し、当然4港湾を重点的に見てもらうということであって、そこに新たに小樽なりほかの港を加えてということではない。

・全道の紹介も、どこかの会場でセミナー等を行うのであれば、その中で5分でも10分でも時間を頂戴するとか、その場で各港のパンフレットを配付するとか、その辺については、北海道クルーズ振興協議会と今後打合せをして進めていただきたい、というのがこちらからの要望。

・基本的には、提案された事業計画に沿って4港湾中心に見てもらうということを進めていただきたい。当初、誤解を与えるような言い方であったことは、この場を借りてお詫びしたい。

(4港湾側)

・結局は、4港湾の当初の提案書のままとということか。

(国際観光課)

・そこにオプション的に入れてもらえれば。

(4港湾側)

・VJ事業は、部分的に国が委託するが、その部分的に委託する中に先程言ったものを入れるということか。公示する仕様書に入れるのか、入れなくてもいいのか。

・ここは非常に大事な所。仕様書に入れなくていいのであれば内輪の話だけで済むが、仕様書に入れることで、良いとか悪いとかの判断をもう一度されるのであれば、後で現場が困ることになる。

・セミナーを行うどこかの会場にパンフレットを置く程度でいいのであれば、仕様書に入れる必

要もないということではいけないのか。

(国際観光課)

・発言になってしまうので検討させてほしい。

(4 港湾側)

・北海道クルーズ振興協議会の担保があれば、当初の提案書は修正しなくていいということか。

(協議会)

・内部で検討して城課長から回答があると思うが、基本的には、提案書は変更しなくていいと思う。

(4 港湾側)

・仕様書を作るのは企画観光部（国際観光課）なので、そのときに入れられると困る。

(国際観光課)

・例えば「セミナーを行うこと」といった仕様書になるかもしれない。意見交換会であれば「意見交換会を行うこと」といった仕様書になると思う。

(4 港湾側)

・それであれば、先程の話は出てこない。最初の考え方のとおり。

・北海道の地図の中に4港があって、小樽と網走があれば、それで紹介したことになるのか。

(協議会)

・そこまでも求めていない。協議会が全ての港に付いて行くことはできないので、どこかに絞ることになると思うが、そこで行われる意見交換会の中で少し時間を頂いて、協議会が作っている北海道全体の港湾の資料をキーパーソンに渡すとか、ほかの港から希望があればその港のパンフレットを配るとか、その程度でいいのではないかと思うし、そのように聞いている。

・みなさんの計画を変えるということではなくて、意見交換会の中に我々の時間を入れていただければと考えている。

(4 港湾側)

・心配なのは、5分だとかペーパー1枚だとか言っても、言葉として入ってしまえば、ひとつの柱となって、やらざるを得なくなるので、それがネックになることもある。

・各港は、あえて事情を説明する必要はない。当日に、ちょっとクルーズ振興協議会が北海道全体の話をする場面を作るといっているのであれば、それはそれでいいと思う。

(協議会)

・それでいいですね。

(国際観光課)

・いいです。

(4 港湾側)

・5分、10分でも、パンフレットを渡すだけでもいいということだが、それが内容によっては話の柱になってしまう場合もあるが、逆に、そもそもそんな程度のことをどうしても盛り込まな

ければならないものなのか。どれ程の意味があるのか。

(国際観光課)

・広域で連携してやるということなので、どこかで全道の話もしていただきたい。効果というのは、本音で言えば、やったというだけのアリバイみたいなものかもしれない。

(4港湾側)

・国が100%費用を出すなら理にかなっているかもしれないが、半分を地方が持つのだから理由にならないのではないかな。

・運輸局としては、そういう時間は設けてほしいということか。

(国際観光課)

・時間は設けてほしいが、それが絶対条件ではない。そこもダメだということであれば、別の方法を考えることになる。

(4港湾側)

・外国の船社と話をするとき、日本は分かるし、北海道も分かると思うが、位置関係は全然分からないのだから、一般的に説明するときは、北海道の4港はここで、小樽があつて、札幌があつて、エアポートがここでという説明になると思う。大きくとらえれば、そういう形でもいいということではないか。

・いずれにしてもその説明は、クルーズ振興協議会で誰かが来てやるなり、パンフレットを配るなり責任を持ってやるということですね。

・北海道運輸局として北海道全体での観光という立場も分かる。我々地方自治体の市の職員が市民の税金を使って、市のためにということが、大きくは北海道の経済とか港湾振興に寄与するのであれば、やぶさかではないし、勿論なことと思うが、市の職員が最初から全道の港湾振興のために何かをするということは、基本的には、やはり筋違いだと思う。

・北海道運輸局として、せっかくキーパーソンが来ているのだから便乗して何かをしたいという気持ちもわからないわけではないので、今回の整理としては、提案書の内容はそのまま、VJ事業を行う4港湾と(全道を紹介する)クルーズ振興協議会が連携して、どこかで全道をPRする場を設けるということではないか。

・つまり、クルーズ振興協議会が全道をPRする場面は、VJ事業ではないという認識。見た目は一緒だが、ここでの整理はそうしないとつじつまが合わない。

・事業報告をどうするか、1行2行入れるとかは後からの相談になるが、そう整理をしないと各地域の議会への説明も付かないので、そうさせていただきたい。

・ただ、最初にあった小樽云々の話は言わない方がいいのではないかな。VJ事業を実施する際にクルーズ振興協議会から協力依頼があつた程度に留めておいた方がいい。

・元々、クルーズ振興協議会は、そういう機会があるごとにプロモーションDVDを配付したりしているわけだから、その一環という形でいいのではないかな。

(国際観光課)

- ・それでいいと思う。

(4 港湾側)

- ・事業報告では、そういう付帯的な内容になっていても問題ないか。

(国際観光課)

- ・そこは、やり方だと思う。

(4 港湾側)

- ・厳しい評価を後から求められたときは相談になると思うが、事業が終わった後なのだから、ここでの作文ということだろう。

○今後は、新幹事港である室蘭港が窓口となって事業を進めていくことを確認し終了。

○V J 事業の内容等について確認

- ・スタークルーズ日本オフィス代表荒木氏によると、事業の実施時期については、クルーズキーパーソンの日程調整が相当に難しい。ただし、しっかりマーケティングしたいので、現地には来たいとのこと。荒木氏との調整、早めの打診が必要。
- ・スタークルーズ社の運航計画は4名の合議制。荒木氏がその内の誰かと来ることになる。
- ・北海道運輸局の委託業者決定なども同時進行的に確認が必要。
- ・先方の都合で、急遽来るとなった場合の準備も必要。
- ・旅行代理店の用意する随行通訳については、意見交換会、首長面談のときは通訳せず、現地通訳にまかせる場合があり得る。

4 日本クルーズ客船(株)との意見交換

(4 港湾側)

- ・飛んでクルーズ北海道の太平洋側バージョンを、ぜひ、ぱしふいっくびいなすでお願いしたい。

(日本クルーズ客船)

- ・去年から、クルーズが空いている4月～6月に沖縄や利尻・礼文を始めたが、なかなか上手くいかない。
- ・3～4年で寄港地を回しているが、ネタが尽きて正直行くところがない。
- ・一番の問題は、集客をどうするか。

(4 港湾側)

- ・4 港湾連携では、同じ月でも気候の全く違う函館と釧路であるとか、4 港の中から好みにチョイスできる提案や、各地域の近郊を含めた色々な提案ができると思うので、ぜひ言っていただきたい。

(日本クルーズ客船)

- ・我々営業を担当している者としては、集客のため、いかに露出してもらえるか。乗るお客さん

に対し直接訴えてほしい。何かやってほしい。

- ・我々は、港の魅力を表現するのはプアだ。
- ・富裕層から大衆化を前面に出して、小粒を増やす作戦でやっている。

(4 港湾側)

- ・4 港湾の課題というか、クリアしなければ客船誘致が難しい問題点は分かった。
- ・ただし、やれる範囲はあって、事業費をかけてというのは無理だと思う。
- ・メディアを活用するなど、乗船客にたどり着く前の人に訴えかけるだとかそういう工夫をするしかない。
- ・そういうことを意識して、今後も検討していきたいので、また議論の場を持っていただければと思う。

(協議会)

- ・集客がこれからの大きな課題。道民にいかにクルーズしてもらうかがポイントだと思う。
- ・次年度以降、実は色々と考えがある。その中で展開していくので、みなさんにもよろしく願いしたい。

(協議会)

- ・函館で実施している乗船客向けアンケート調査を全道展開し、各港の結果を頂いて集計したいと考えているのでお願いしたい。

○北海道クルーズ振興協議会総会の開催時刻となったため終了。

○意見交換会の次回開催等は、メールで連絡。

以 上